

調査成果報告会

公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター
中島 皆夫

報告会の内容

平成 23 年度に実施した調査の成果から

- ① 右京第 1019 次調査 → 戦国時代の堀
長岡京期の大甕

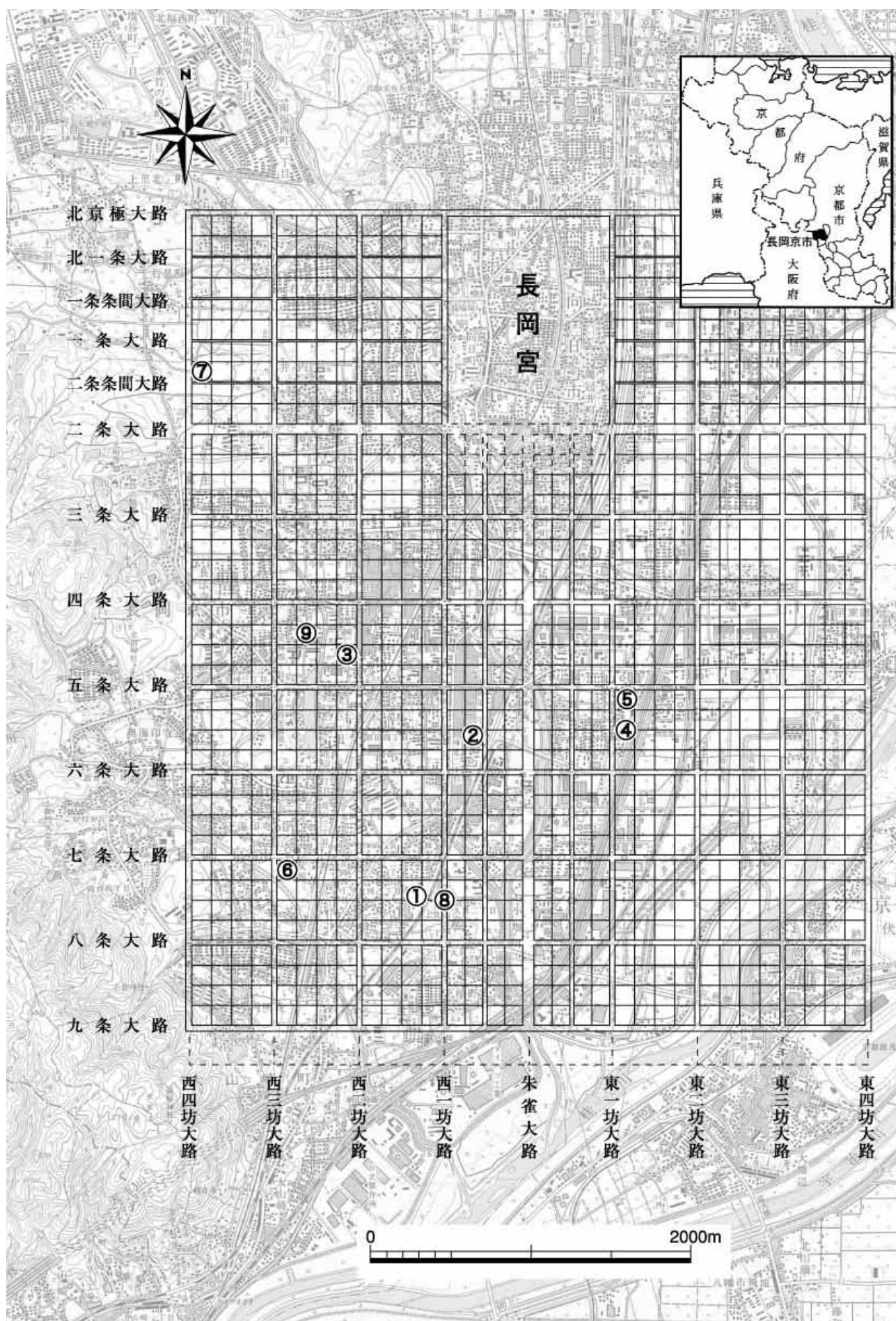
- ②～⑧ その他の調査 → 古墳時代～江戸時代の調査成果

過去の調査成果から

- ⑨ 宇津久志 1 号墳の調査 → 重層ガラス玉などの副葬品

お知らせ

- ・センター設立 30 周年記念誌『埋もれていた歴史』を刊行しました。
『埋もれていた歴史』は、センター設立 30 周年を記念して刊行したもので、本書には長岡京市内において発見された膨大な埋蔵文化財の中から、主だった遺跡や遺構遺物を時代順に取り上げて紹介しました。『埋もれていた歴史』は、長岡京市埋蔵文化財センター、長岡京市立図書館など各地の図書館、長岡京市内の市民情報コーナー、行政資料展示コーナーなどでご覧頂けます。
- ・平成 24 年度特別企画展「玉・古墳時代の装飾品」を開催します。
ローマ帝国領内で製作されたことがわかり話題となった、宇津久志 1 号墳出土の重層ガラス玉をはじめ、長法寺七ツ塚古墳群など市内の古墳から出土した装飾品を集めて展示します。
会 期 平成 24 年 11 月 3 日 土曜日～11 月 30 日 金曜日
特別企画展の開催中は休まず開館します。
時 間 土曜・日曜・祝日：午前 10 時から午後 4 時まで
平日：午前 8 時 30 分から午後 5 時まで
場 所 長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1
長岡京市立埋蔵文化財調査センター エントランスホール
- ・第 55 回文化財講演会を開催します。
特別企画展「玉・古墳時代の装飾品」にあわせ、平成 24 年 11 月 18 日 日曜日 に文化財講演会を開催します。この講演会では、宇津久志 1 号墳出土の重層ガラス玉を分析調査された奈良文化財研究所の研究者から、ガラス玉の分析方法など科学分析を通して明らかになる考古資料の世界を紹介していただきます。
日 時 平成 24 年 11 月 18 日 日曜日、午後 2 時から
場 所 中央公民館講座室
講 師 田村 朋美 氏（奈良文化財研究所研究員）
演 題 「古代ガラスの考古科学～宇津久志 1 号墳出土ガラス玉のルーツ～」
入 場 無料（定員 70 名）



▲ 長岡京条坊復原図と調査地の位置

① 長岡京跡右京第 1019 次調査

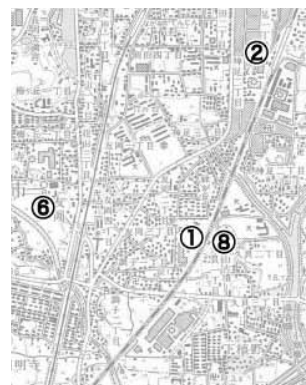
調査期間 2011（平成 23）年 2 月 14 日～2012（平成 24）年 3 月 31 日

調査地 長岡京市調子一丁目 25-1 他

調査遺跡 長岡京跡右京八条二坊二・六・七町

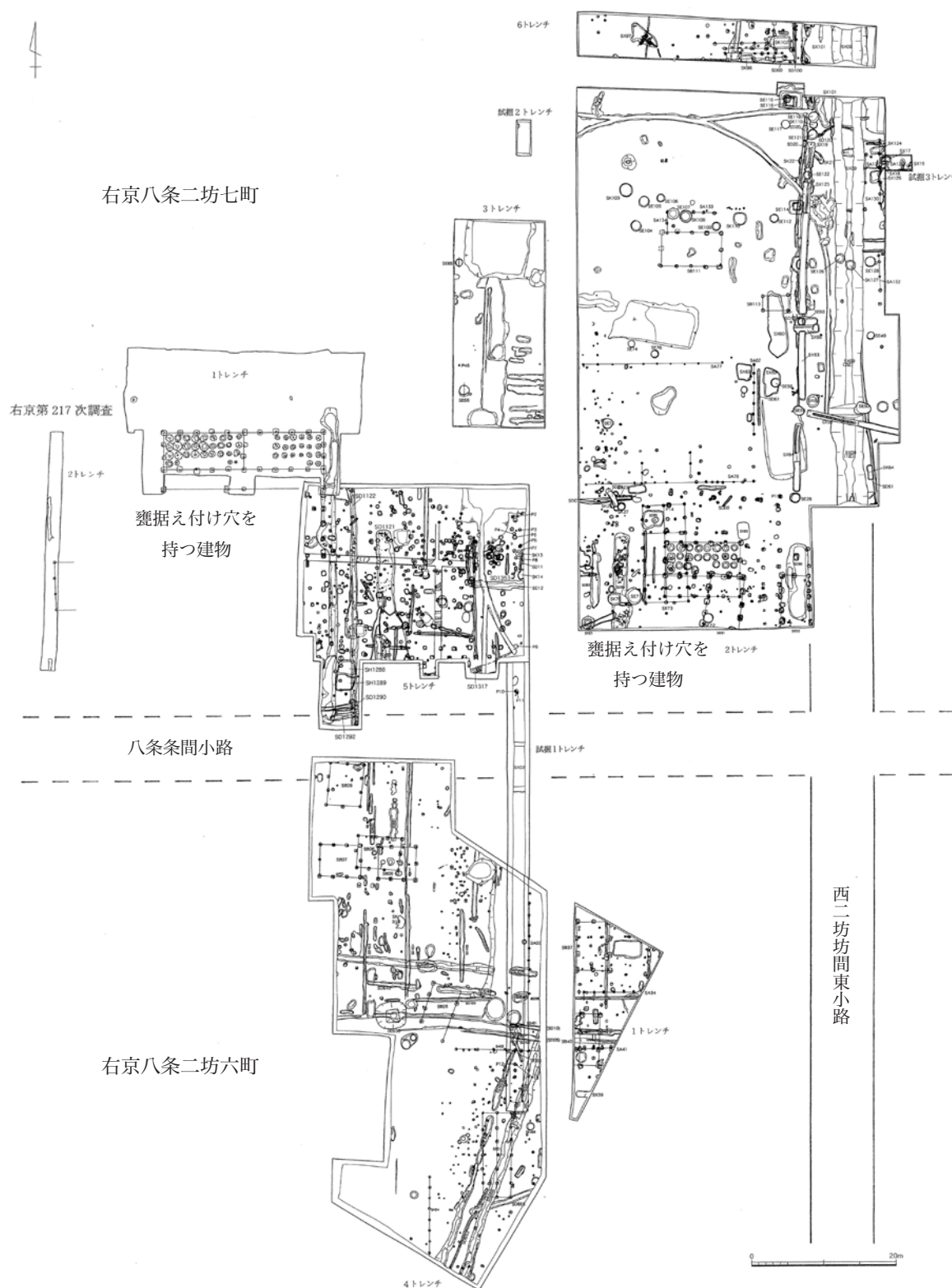
調査成果（近世・中世・平安・長岡京期）

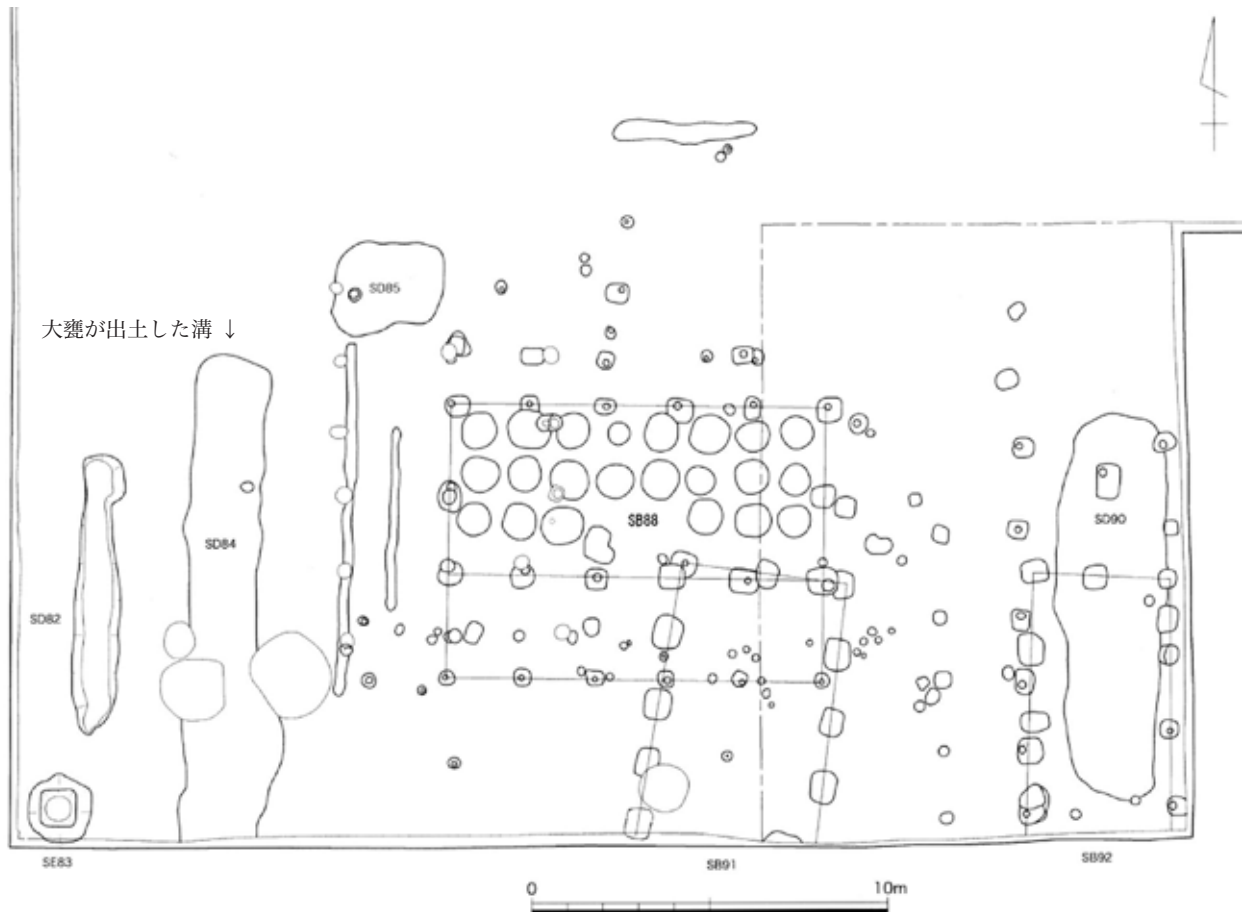
戦国時代では、南北方向の堀が見つかりました。この堀は山崎合戦に伴うものと考えられます。平安時代では、第 3 次山城国府との関連が想定される掘立柱建物や井戸などが、長岡京期では、甕据え付け穴を持つ建物や井戸、溝などが見つかりました。長岡京期の甕据え付け穴を持つ建物は醸造施設と考えられ、隣の溝からは大甕の破片が出土しています。その他、江戸時代後半期では、土管理設溝と井戸を組み合わせた遺構があります。



▲ 調査地位置図

▼ 調査地平面図





▲ 長岡京期の甕据え付け建物と溝

8/5
2011年(平成23年)

山崎の合戦 秀吉迎撃

光秀の「陣城」堀跡か

長岡京・恵解山古墳付近 総延長400m?

長岡京山崎合戦跡、戦国時代に光秀が陣取ったとされる「陣城」の堀跡が、長岡京山崎合戦跡の南側に発見された。堀跡は、長さ約400メートル、幅約10メートル、深さ約1メートルで、東西に伸びている。堀跡の両側には、長さ約100メートル、幅約5メートルの溝が掘られている。堀跡の発見は、光秀の陣城が、長岡京山崎合戦跡の南側にあったことを示している。堀跡の発見は、光秀の陣城が、長岡京山崎合戦跡の南側にあったことを示している。

2012年(平成24年)9月16日 日曜日 13版 △ 京都市内 26

どっぷり.. 酒ひたる?

須恵器の大甕復元

長岡京跡から出土した国内最大級の須恵器の大甕が復元された。甕の直径は約1.4メートル、高さ約1.4メートル、容量は約570リットル。甕の内部には、長さ約1.4メートル、幅約1.4メートル、高さ約1.4メートルの土製の人形が埋め込まれていた。甕の発見は、長岡京跡の須恵器の一大生産地であることを示している。

国内最大級、醸造用か

長岡京跡から出土した国内最大級の須恵器の大甕が復元された。甕の直径は約1.4メートル、高さ約1.4メートル、容量は約570リットル。甕の内部には、長さ約1.4メートル、幅約1.4メートル、高さ約1.4メートルの土製の人形が埋め込まれていた。甕の発見は、長岡京跡の須恵器の一大生産地であることを示している。

長岡京跡から出土 300の破片使用

▲ 新聞にも掲載されました

(左：2011.8.5 付 京都新聞 朝刊、右：2012.9.16 付 朝日新聞 朝刊)

② 長岡京跡右京第 1038 次調査

調査期間 2012 (平成 24) 年 1 月 10 日～2 月 20 日

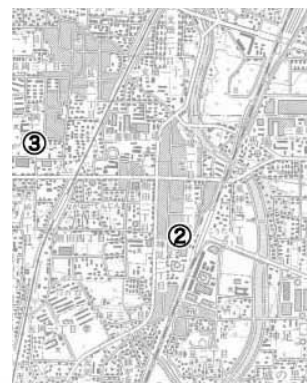
調査地 長岡京市神足一丁目 320 番 1

調査遺跡 長岡京跡右京六条一坊十一町、神足遺跡、近世勝龍寺城跡

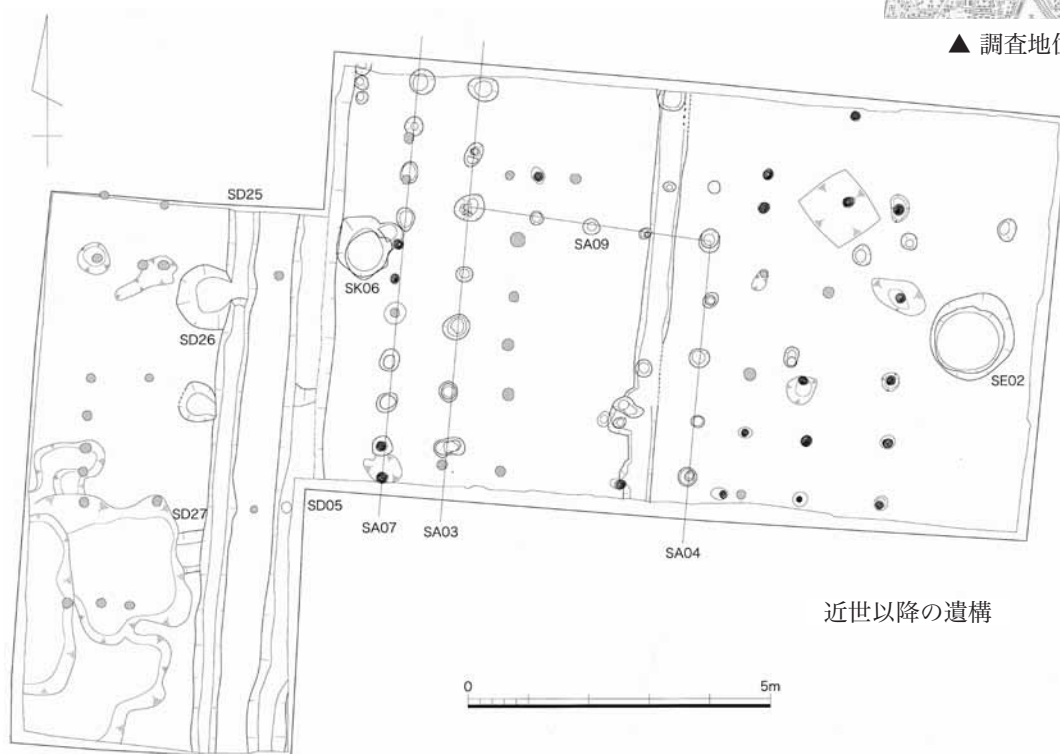
調査成果 (近世・中世・長岡京期・古墳)

近世では、掘立柱建物や柵、土坑、井戸など、近世勝龍寺城の足軽町に関連する遺構が見つかりました。

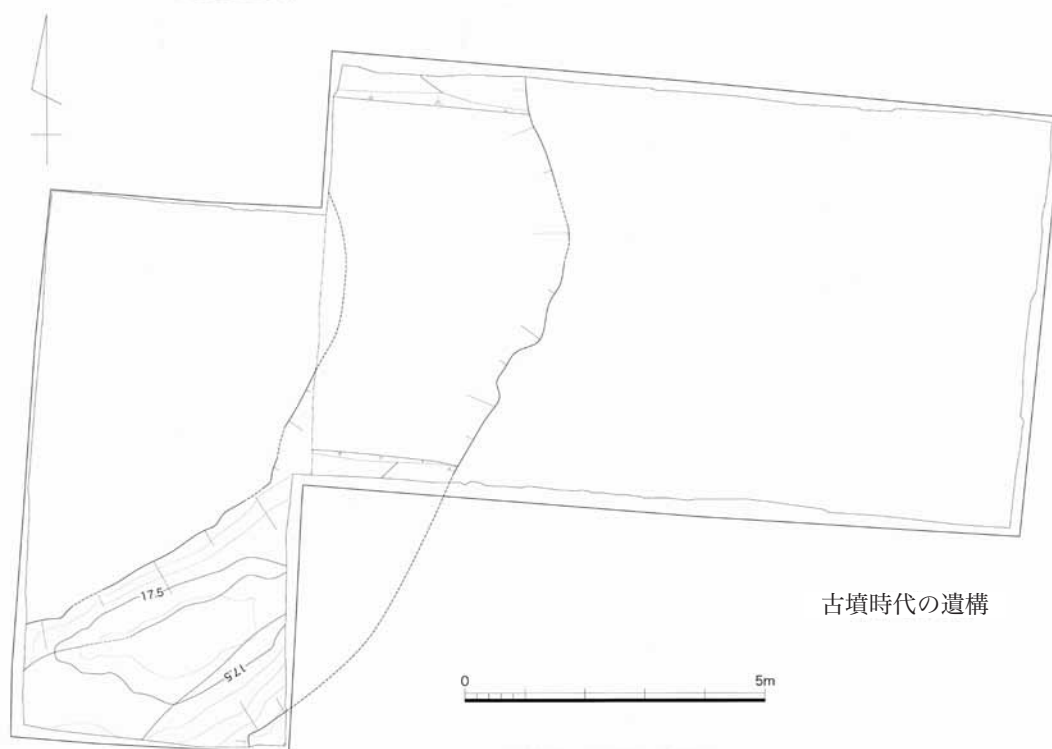
その他、長岡京期では、掘立柱建物や溝、土坑が見つかりました。出土した遺物から鉄製品の生産に関係するものと考えられます。また、古墳時代では、古墳の周溝と思われる溝が発見されています。



▲ 調査地位置図



近世以降の遺構



古墳時代の遺構

▲ 調査地平面図

③ 長岡京跡右京第 1034 次調査

調査期間 2011（平成 23）年 11 月 14 日～2012（平成 24）年 2 月 1 日

調査地 長岡京市長岡二丁目 421-1 他

調査遺跡 長岡京跡右京五条三坊三町、開田城ノ内遺跡

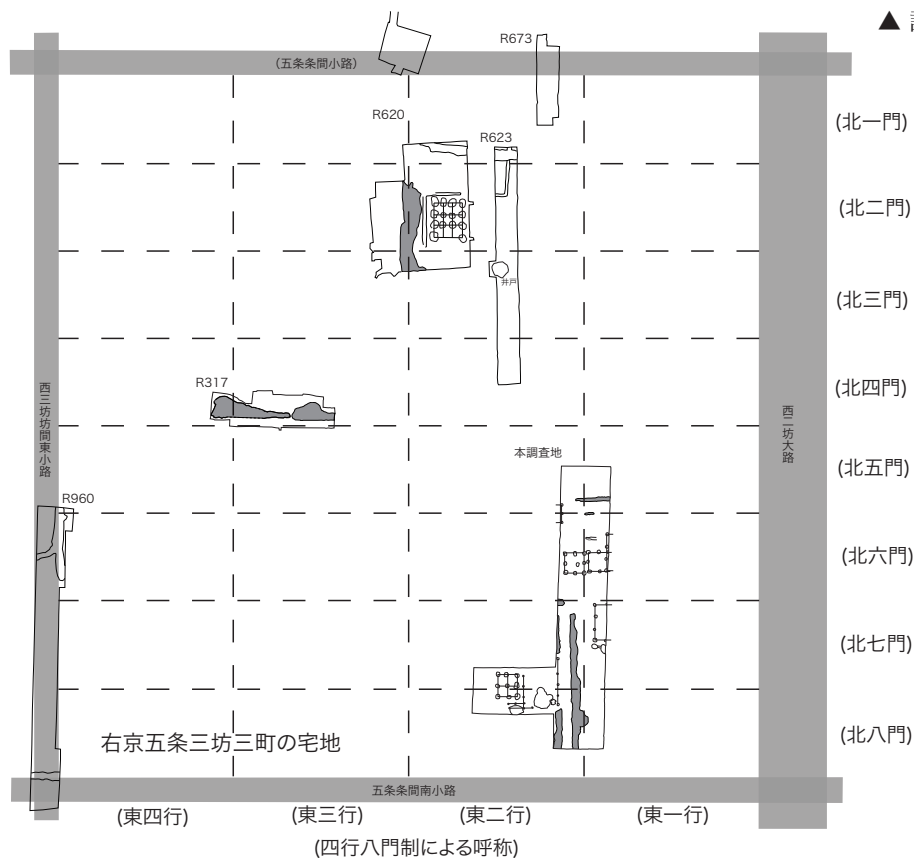
調査成果（近世・中世・平安・長岡京期・古墳）

長岡京期では、掘立柱建物や土坑、溝などが見つかりました。これらの遺構は一町内を分割する区画施設と考えられます。

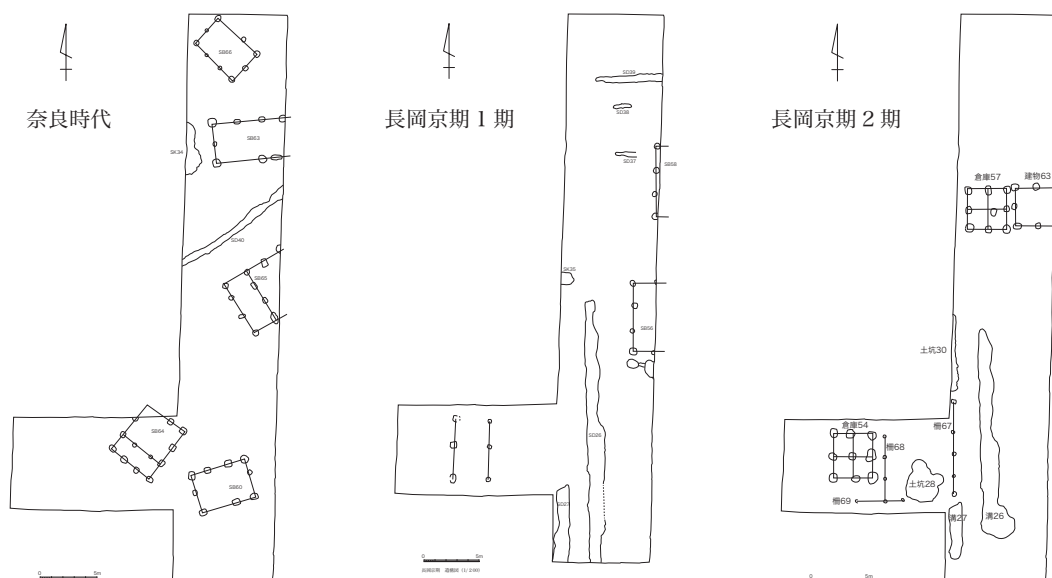
その他、奈良時代では、掘立柱建物や土坑、溝、古墳時代では、後期の竪穴住居が見つっています。



▲ 調査地位置図



▲ 右京五条三坊三町の宅地内における遺構配置図



▲ 遺構変遷図

④ 長岡京跡左京第 543 次調査

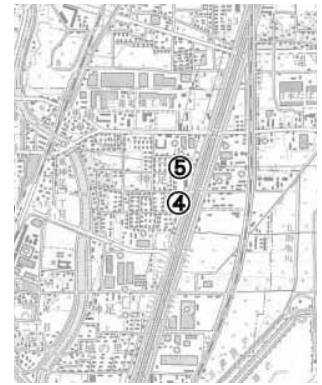
調査期間 2011（平成 23）年 4 月 6 日～5 月 2 日

調査地 長岡京市神足麦生 8 番 4

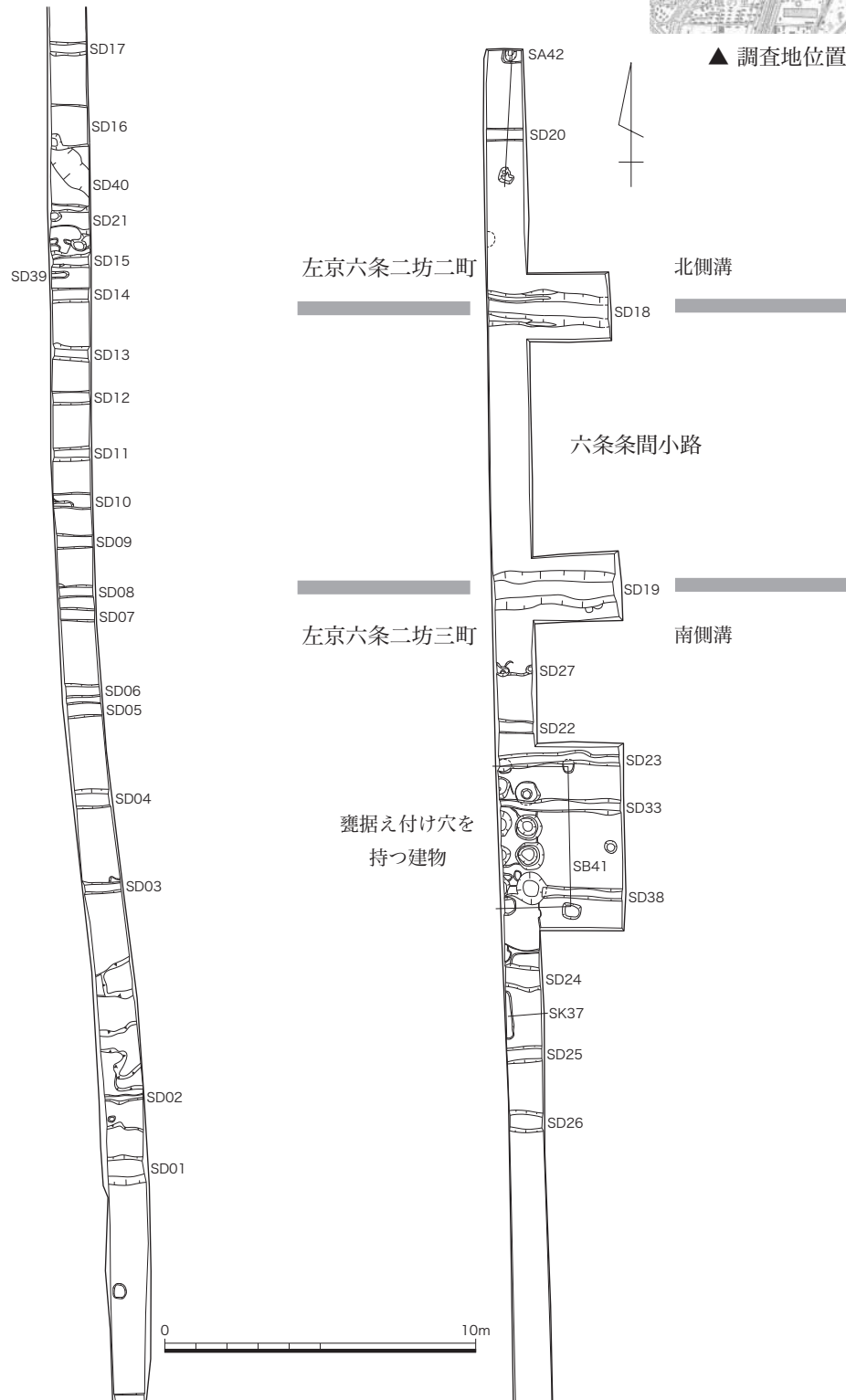
調査遺跡 長岡京跡左京六条二坊二・三町（六条条間小路）、雲宮遺跡

調査成果（長岡京期・古墳）

長岡京期では、六条条間小路の北側溝と南側溝が見つかりました。また、左京六条二坊三町の宅地内では、甕据え付け穴を持つ掘立柱建物や、東西の小溝群なども確認されています。



▲ 調査地位置図



▲ 調査地平面図

⑤ 長岡京跡左京第 546 次調査

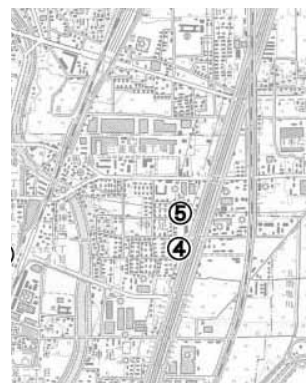
調査期間 2011（平成 23）年 8 月 22 日～10 月 28 日

調査地 長岡京市神足神田 15 他

調査遺跡 長岡京跡左京六条二坊一町、雲宮遺跡

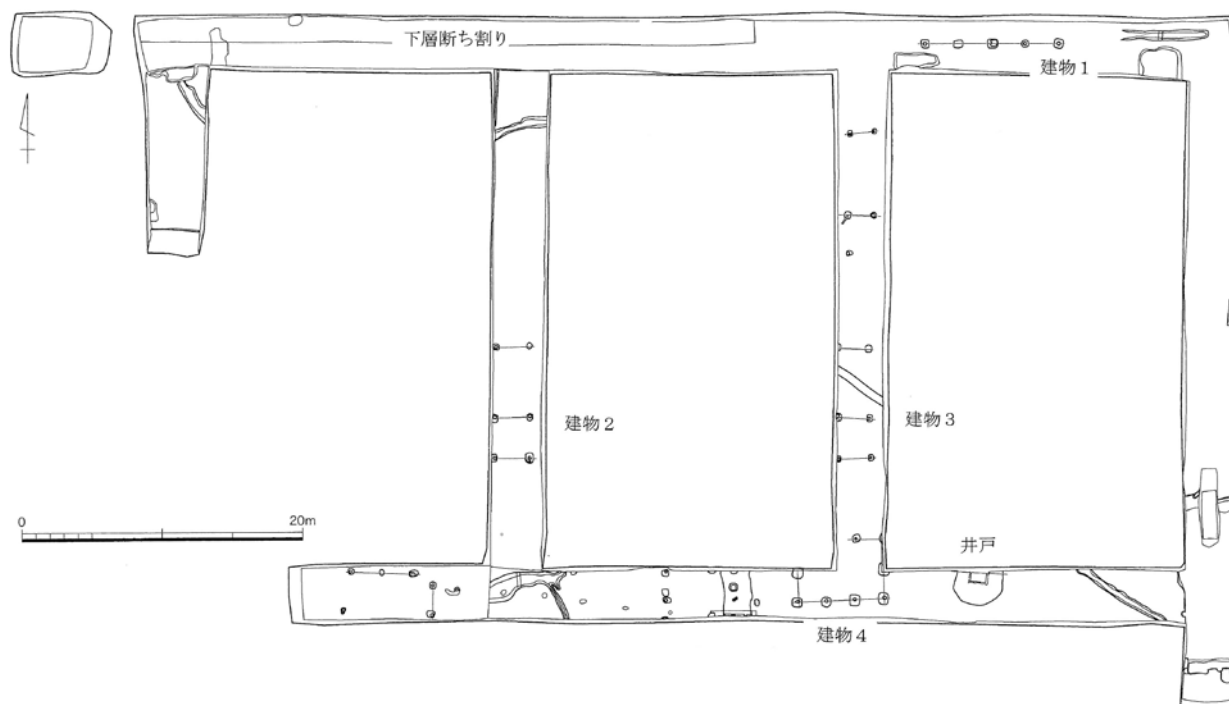
調査成果（長岡京期）

長岡京期の掘立柱建物や柵、溝、縦板組の井戸などが見つかりました。



▼ 調査地平面図

▲ 調査地位置図



⑥ 長岡京跡右京第 1033 次調査

調査期間 2011（平成 23）年 10 月 17 日～11 月 9 日

調査地 長岡京市下海印寺下内田 12-1

調査遺跡 長岡京跡右京八条三坊十六町、伊賀寺遺跡

調査成果（飛鳥奈良）

飛鳥奈良時代の土坑や柱穴が見つかりました。調査地の東方に所在する鞍岡廃寺に関係した遺構と考えられます。

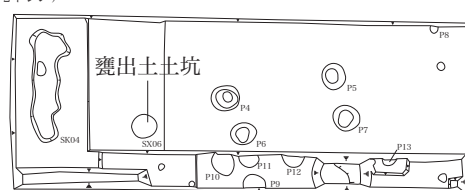
その他、包含層からは縄文土器が出土しています。



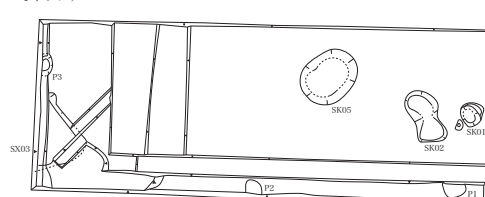
▼ 調査地平面図

▲ 調査地位置図

2 トレンチ



1 トレンチ



⑦ 井ノ内車塚古墳第4次（長岡京跡右京第1028次）調査

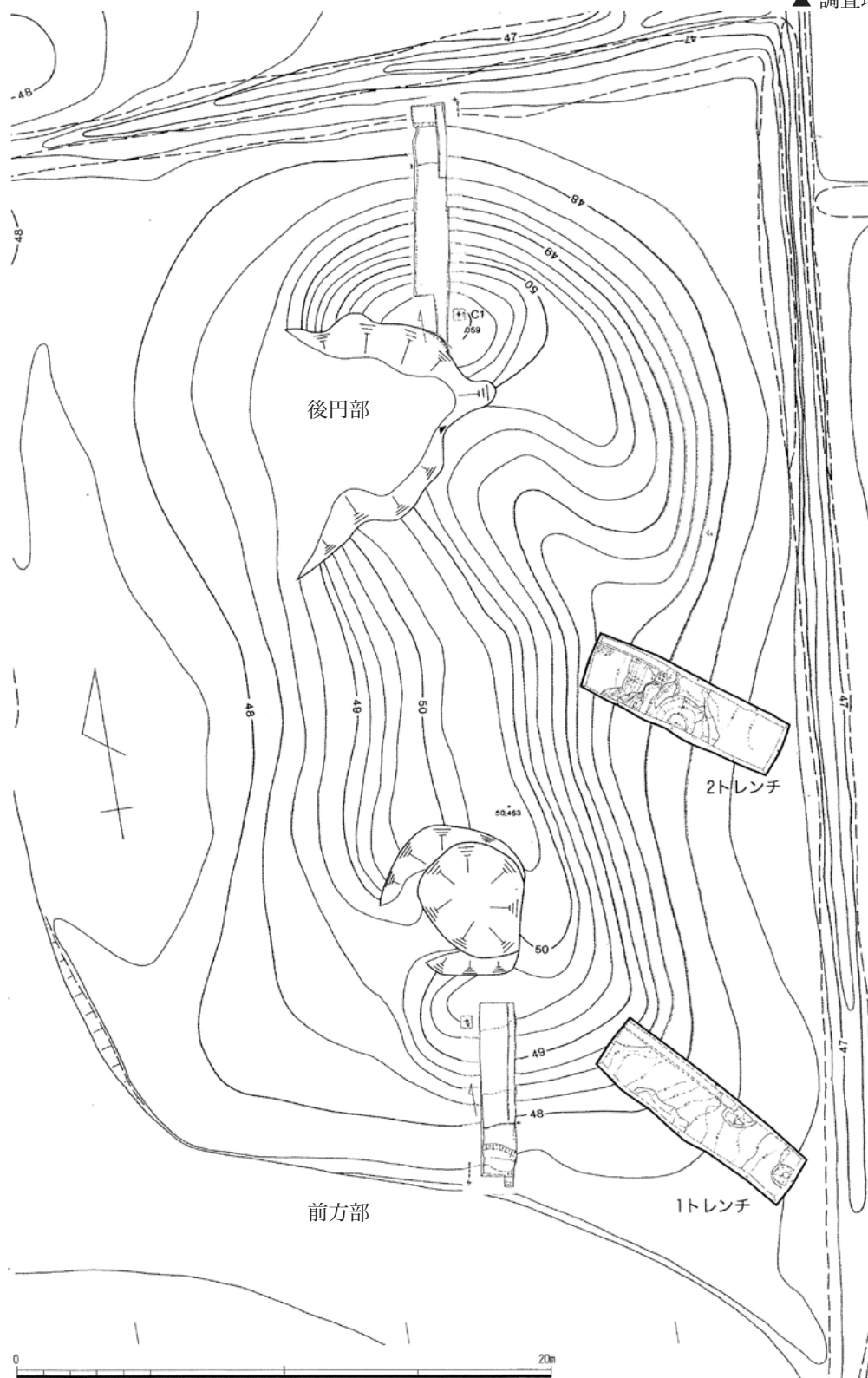
調査期間 2011（平成23）年9月14日～10月26日
 調査地 長岡京市井ノ内向井芝4
 調査遺跡 長岡京跡右京二条四坊十五町、井ノ内車塚古墳
 調査成果（古墳）

井ノ内車塚古墳の墳丘の構築状況や地山との境などが明らかになりました。また、円筒や朝顔形埴輪がまとまって出土した他、家形や石見型などの形象埴輪、韓式系土器も発見されています。



▼ 墳丘測量図と調査地平面図

▲ 調査地位置図



⑧ 恵解山古墳第12次（長岡京跡右京第1029次）調査

調査期間 2011（平成23）年9月26日～10月26日

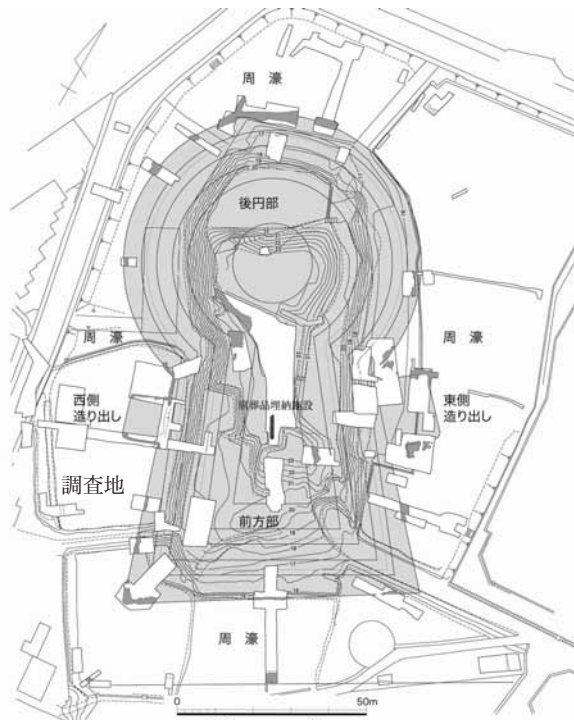
調査地 長岡京市勝竜寺1402-1他

調査遺跡 長岡京跡右京八条二坊二町、恵解山古墳、南栗ヶ塚遺跡

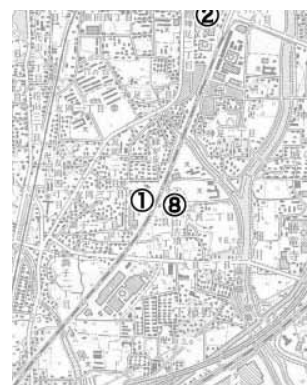
調査成果（近世・古墳）

恵解山古墳の前方部西側一段目の基底石と斜面の葺石、周濠西辺の状況などが明らかになりました。

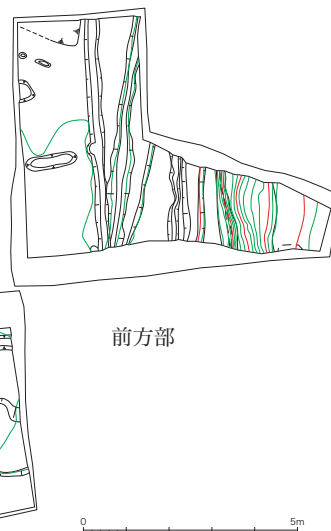
▼ 恵解山古墳の復元図とこれまでの調査



▼ 調査地平面図



▲ 調査地位置図



⑨ 宇津久志古墳群（長岡京跡右京第321次）の調査

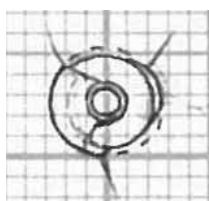
調査期間 1988（昭和63）年11月9日～12月19日

調査地 長岡京市天神五丁目6-3

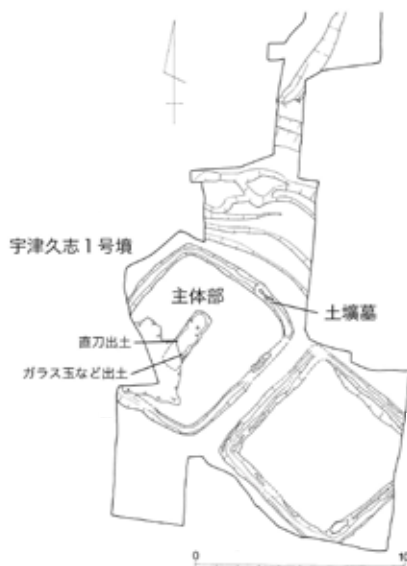
調査遺跡 長岡京跡右京五条三坊十町、宇津久志古墳群

調査成果（古墳）

古墳時代中期前半の古墳群が見つかりました。1号墳には鉄刀や櫛などとともに、大量のガラス玉が副葬されていました。科学分析調査の結果、ガラス玉のなかには重層ガラス玉など、ローマ帝国の領域内で作られたものも含まれていることがわかりました。



▲ 重層ガラス実測図



▲ 調査地位置図

◀ 調査地平面図